

【愛媛／松山ミュージアム・ストリート特別企画】
「真鍋博 カコをみる、イマをみる、ミライをみる」の開催について

松山城を中心に集う10のミュージアムや文化施設からなる「愛媛／松山ミュージアム・ストリート連絡協議会」が、10月20日に発足10年目を迎えます。このことを記念して、愛媛県美術館、セキ美術館、ミウラート・ヴィレージの3館で同時期に、愛媛県美術館の真鍋博コレクションをそれぞれの視点で展示します。

また「コレクション・ハイライト」のコーナーでは、特別ミニ企画として、「祝うよろこび」をテーマに展示を行います。

つきましては、本展の取材及び報道にご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



記

展覧会情報

1 展覧会名

【愛媛／松山ミュージアム・ストリート特別企画】
「真鍋博 カコをみる、イマをみる、ミライをみる」

2 内容

愛媛県出身の真鍋博（1932-2000）は、イラストレーションにより様々な分野で活躍しました。未来は、「想像」ではなく「創造」だと考えていた真鍋は、過去や現在をしっかりとみつめるなかで、未来を表現していきます。

当館には、書籍やアニメーション等、複製可能なメディアにより作品を多くの人に発信することの重要性をいち早く認識していた真鍋作品の原画等が約22,000点収蔵されています。その中から、大阪・関西万博の開催にあわせ、1970年の大阪万博の仕事や、『2001年の日本』（1969）等の真鍋の未来への思考やまなざしが感じられるコレクションをご紹介します。私たちが、どのような未来を創造できるのか考える機会となれば幸いです。

3 会期

令和7（2025）年9月6日（土）～10月22日（水）

開館時間：9:40～18:00（入場は17:30まで）

休館日：9月8日（月）、16日（火）、22日（月）、29日（月）、
10月7日（火）、14日（火）、20日（月）

4 会場

愛媛県美術館 本館 1 階 企画展示室 1・2

5 観覧料

一般 340 円（団体 270 円）、大学・高校生 230 円（団体 180 円）

※小中学生、満 65 歳以上の方、障がい者手帳等をお持ちの方（介護者含む）は無料。
団体は 20 名以上。

6 協力

愛媛／松山ミュージアム・ストリート連絡協議会

7 後援

愛媛県教育委員会、松山市教育委員会



真鍋博（1932-2000）

愛媛県宇摩郡別子山村（現新居浜市）生まれ。1951 年に多摩美術短期大学絵画科に入学、在学中から二紀会や読売アンデパンダン展に出品し、卒業直後から個展や同時代の作家らとグループ展を意欲的に開催しました。1950 年代後半からは、挿絵や装幀等、書籍分野にも活動を広げ、1960 年にはアニメーション 3 人の会を結成すると、独自の硬質な線描に動きが加わり、更には 3 次元の舞台美術まで多彩に展開していきます。その中で「未来」というテーマを見出し、1970 年の大阪万博においても数多くの仕事を手掛けます。印刷メディアに主軸を置きながら、イラストレーションのみならず、環境や暮らしに関わる分野でもその豊かな視座から携わり、国内外に活躍しました。

展覧会の見どころ

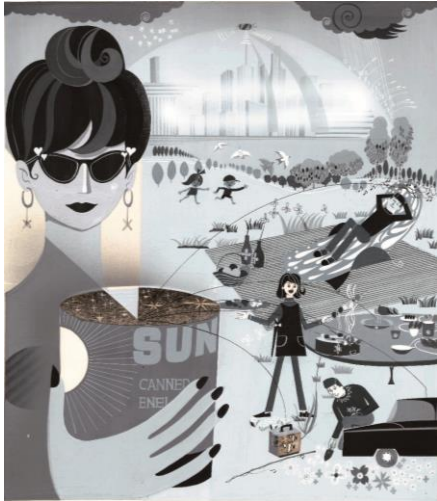
○愛媛県美術館所蔵の真鍋博コレクションを 3 館で展示！

当館の真鍋博コレクションは、約 22,000 点に及ぶ一作家としては最大のコレクションとなっています。また、原画は設計図であり、印刷物となって作品となると考えた真鍋の原画等が使用された雑誌書籍などの印刷物を中心とした資料は、県立図書館に約 30,000 点が所蔵されています。真鍋博という作家が、自分自身の記録を残すということに意識的であったことから、これだけの規模のコレクションが可能となりました。今回は、愛媛県美術館、セキ美術館、ミウラート・ヴィレッジの 3 館で同時期に、愛媛県美術館の真鍋博コレクションをそれぞれの視点で展示します。



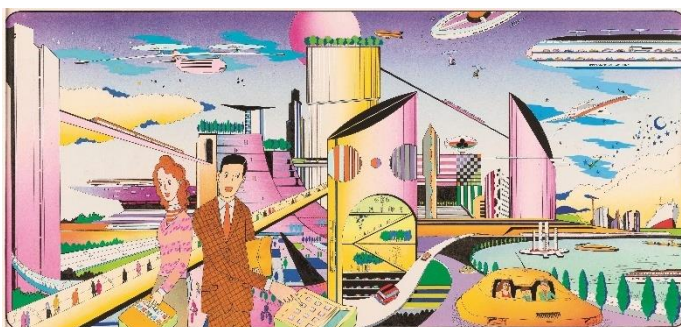
真鍋博《キツネのちょうちん》
「愛媛の昔語り」第四部
『愛媛新聞』1960 年

○真鍋の未来への思考やまなざしに迫る



真鍋博
電気『2001 年の日本』挿図原画
1969 年

本展は、真鍋の「未来というのは占ってはならない。クリエイションとして来るべきものだ。」という言葉を中心に、筆によって自在に時間旅行をした真鍋作品の数々を展示します。高度経済成長期や大阪万博等、人々が様々な未来を描いていた時代に、未来は「創造」だと考えていた真鍋は、過去や現在をしっかりとみするなかで表現を展開していきます。1970 年の大阪万博や、当時は未来で、今から見ると過去となった『2001 年の日本』（1969 年）等の真鍋の未来への思考やまなざしが感じられるコレクションをご紹介します。



すべて真鍋博

上段左：《日本万国博覧会会場全景》1967 年

上段右：《会場は美しい未来都市》1969 年

下段左：《にぎやかな未来》1978 年

下段右：《タイムマシーン》1979 年

ミウラート・ヴィレッジでの展示

■真鍋博展～ミライを拓く

1 会期

8月24日(日)～10月19日(日)

開館時間：9:30～17:00（入場は16:30まで）

休館日：月・火曜日（祝日は開館）

2 観覧料

一般 700 円、高大生 400 円、中学生以下無料

※65 歳以上の方は、その証明書等の提示で 500 円となります。

※障がい者の方は、その証明書等の提示でご本人と介護者が 500 円となります。

セキ美術館での展示

■真鍋博と印刷会社 2

1 会期

9月12日(金)～11月24日(月)

開館時間：10:00～17:00（入場は16:30まで）

休館日：月・火曜日（祝日は開館）

2 会場

セキ美術館 3 階展示室

3 観覧料

一般 800 円、大学生 700 円、小中高校生 500 円

※「秋の所蔵作品展」もご覧いただけます。

会期中のイベント

●連続記念講演会「父・真鍋博の描いた世界」

講師：真鍋真（国立科学博物館・名誉研究員、群馬県立自然史博物館・特別館長）

①「真鍋博と、ときどき恐竜」

※お子様もお楽しみいただける内容です。

日時：10月4日（土）14:00～15:00

場所：ミウラート・ヴィレッジ

定員：40 名（先着順、要申込、要観覧料） 申込はこちらから→



②「真鍋博とタイムトラベル」

※手話通訳付き

日時：10月5日（日）14:00～15:30

場所：愛媛県美術館 講堂

定員：100 名（先着順、要申込） 申込はこちらから→



●ギャラリートーク

日時：9月27日（土）14:00～

講師：喜安嶺（愛媛県美術館専門学芸員）、米屋公美子（ミウラート・ヴィレヅ学芸員）、関厚子（セキ美術館副館長・学芸員）

場所：愛媛県美術館 企画展示室（申込不要、要観覧券）

●対話型鑑賞プログラム

日時：10月4日（土）、11日（土）、18日（土）各日 11:00～11:30

ナビゲーター：愛媛県美術館作品ガイドボランティア

場所：愛媛県美術館 多目的ルーム（申込不要）

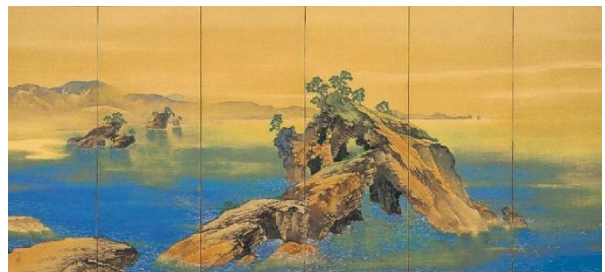
（同時期開催）コレクション・ハイライト特別ミニ企画「祝うよろこび」

こちらのコーナーでは、当館コレクションを代表する作家の作品や海外作品をはじめ、当館自慢の名品・逸品をご覧ください。今回は「祝うよろこび」をテーマに、当館が所蔵する作品の中から、お祝いや記念のために制作された作品を紹介します。

【本コーナーのみ無料開放】



山元春挙《春の海》
1928（昭和3）年



【提供画像一覧】

※チラシ・ポスター画像も含め、下記の画像を希望される方は愛媛県HP お問い合わせフォームにてご連絡ください。 ※クレジット表記をお願いします。

真鍋博《キツネのちょうちん》 「愛媛の昔語り」第四部 『愛媛新聞』挿図原画 1960年	真鍋博 電気『2001年の日本』挿図原画 1969年

	
真鍋博《日本万国博覧会会場全景》 1967 年	真鍋博《会場は美しい未来都市》 1969 年
	
真鍋博《にぎやかな未来》 1978 年	真鍋博《タイムマシーン》 1979 年
	
山元春孿《春の海》 1928（昭和3）年	

（問い合わせ先）〒790-0007 松山市堀之内 愛媛県美術館 学芸課 喜安、杉山、宇野
TEL.089-932-0010/FAX.089-932-0511



ミウラート・ヴィレッジ

真鍋博展 ～ミライを拓く

8/24^{SUN} - 10/19^{SUN}

9:30～17:00 (入場は16:30まで)

休館日：月・火曜日 (祝日は開館)

会 場：ミウラート・ヴィレッジ

観覧料：一般700円、高大生400円、中学生以下無料

※65歳以上の方は、その証明書等の提示で500円となります。

※障がい者の方は、その証明書等の提示でご本人と介護者が500円となります。



愛媛県美術館

真鍋博 カコをみる、 イマをみる、 ミライをみる

9/6^{SAT} - 10/22^{WED}

9:40～18:00 (入場は17:30まで)

休館日：9月8日(月)、16日(火)、22日(月)、29日(月)、
10月7日(火)、14日(火)、20日(月)

会 場：愛媛県美術館 本館1階 企画展示室1・2

観覧料：一般340(270)円、高大生230(180)円

※()内は20名以上の団体料金

セキ美術館

真鍋博と 印刷会社2

9/12^{FRI} - 11/24^{MON}

10:00～17:00 (入場は16:30まで)

休館日：月・火曜日 (祝日は開館)

会 場：セキ美術館 3階展示室

観覧料：一般800円、大学生700円、小中高校生500円

※「秋の所蔵作品展」もご覧いただけます。



松山城を中心に集う10のミュージアムや文化施設からなる「愛媛／松山ミュージアム・ストリート連絡協議会」が、10月20日に10年目を迎えます。
このことを記念して、愛媛県美術館、セキ美術館、ミウラート・ヴィレッジの3館で同時に、愛媛県美術館の真鍋博コレクションをそれぞれの視点で展示する特別企画です。



キツネのちょうちん
「愛媛の昔語り」第四部『愛媛新聞』
挿図原画 1960 ©

愛媛県美術館

真鍋博 カコをみる、 イマをみる、 ミライをみる



日本万国博覧会会場全景 1967 ©

真鍋博 (1932-2000) は、イラストレーションにより様々な分野で活躍しました。未来は、「想像」ではなく「創造」だと考えていた真鍋は、過去や現在をしっかりとみつめるなかで、未来を表現していきます。

当館には、書籍やアニメーション等、複製可能なメディアにより作品を多くの人に発信することの重要性をいち早く認識していた真鍋作品の原画等が約22,000点収蔵されています。その中から、大阪・関西万博の開催にあわせ、1970年の大阪万博の仕事や、『2001年の日本』(1969)等の真鍋の未来への思考やまなざしが感じられるコレクションをご紹介します。私たちが、どのような未来を創造できるのか考える機会となれば幸いです。



大阪万博の建設現場に立つ真鍋 1970頃



にぎやかな未来 1978 ©

ミウラート・ヴィレッジ

真鍋博展 ～ミライを拓く

三浦工業株式会社(ミウラ)の創業者、三浦保(1928-1996)は、偶然にも真鍋博と同時期を生き、同じ68歳で亡くなりました。三浦は「世界一安くて良いボイラを創ろう」という大きな目標を掲げ、「テクノサービス」でミウラの未来を切り拓いていくことに邁進し、「未来は占ってはならない、創るべきものだ。」と語った真鍋は、描くことで未来を創造していきました。この共通点を三浦が語った「ミライを拓く」というサブタイトルにして、真鍋の作品とともにミウラの歩み、ミウラが創造する「ミライ」をご紹介します。



1月1日朝 1990 ©

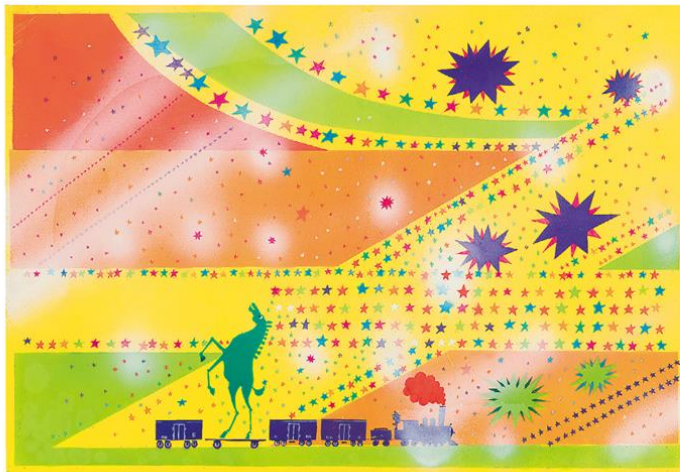
セキ美術館

真鍋博と印刷会社2

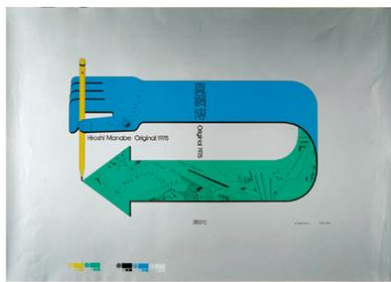


宇宙の千一夜物語1, 2 『Between』
色指定図/校正刷 1985 ©

セキ美術館の運営母体のセキ株式会社は印刷会社で、真鍋博作品の印刷を担っていました。印刷は原則4色のインク（シアン・マゼンタ・イエロー・ブラック）を組み合わせることで表現されます。真鍋は、はじめから印刷表現を想定し、4色の組み合わせで出せる色を原稿に指定すれば原画と印刷物の差異はなくなり、世界のどこで刷っても原稿と同じものが印刷されると考えた上で、細かい印刷指示を行っていました。イラストは印刷手段に翻訳される宿命を負っているものであると感じていたからです。印刷の工程に関わる資料と共に作品をお楽しみください。



『星をたべた馬』挿図原画 1965 ©



『真鍋博 Original 1975』図色校正 1975 ©
『星をたべた馬』1965 愛媛県立図書館蔵 ©



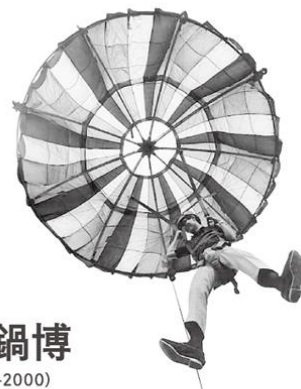
地球にいま何が起きているか
小松左京『異常気象』原画 1974 ©



『超発明』カバー原画 1971 ©



PROFILE



真鍋博
(1932-2000)

愛媛県宇摩郡別子山村（現新居浜市）生まれ。1951年に多摩美術短期大学絵画科に入学、在学中から二紀会や読売アンデパンダン展に出品し、卒業直後から個展や同時代の作家らとグループ展を意欲的に開催しました。1950年代後半からは、挿絵や装幀等、書籍分野にも活動を広げ、1960年にはアニメーション3人の会を結成すると、独自の硬質な線描に動きが加わり、更には3次元の舞台美術まで多彩に展開していきます。その中で、「未来」というテーマを見出し、1970年の大阪万博においても数多くの仕事を手がけます。印刷メディアに主軸を置きながら、イラストレーションのみならず、環境や暮らしに関わる分野でもその豊かな視座から携わり、国内外に活躍しました。

EVENT

連続記念講演会「父・真鍋博の描いた世界」

講師：真鍋真（国立科学博物館・名誉研究員
群馬県立自然史博物館・特別館長）

①「真鍋博と、ときどき恐竜」

※お子様もお楽しみいただける内容です。

日時：10月4日（土）14:00～15:00

場所：ミウラート・ヴィレッジ

定員：40名（先着順、要申込、要観覧料）

申込はこちらから→



②「真鍋博とタイムトラベル」

※手話通訳付き

日時：10月5日（日）14:00～15:30

場所：愛媛県美術館 講堂

定員：100名（先着順、要申込）

申込はこちらから→



ギャラリートーク

日時：9月27日（土）14:00～

講師：喜安嶺（愛媛県美術館専門学芸員）

米屋公美子（ミウラート・ヴィレッジ学芸員）

関厚子（セキ美術館副館長・学芸員）

場所：愛媛県美術館 企画展示室（申込不要、要観覧券）

対話型鑑賞プログラム

日時：10月4日（土）、11日（土）、18日（土）

各日11:00～11:30

ナビゲーター：愛媛県美術館作品ガイドボランティア

場所：愛媛県美術館 多目的ルーム（申込不要）

愛媛アートブックマート#3 (Ehime Art Book Mart #3)

様々な地域から、本やアートをつくる人や売る人、そして読む人やみる人が県美に集う2日間！真鍋博の世界に親しむことができるラインナップを予定しています。中庭でフードの店も！

日時：10月11日（土）、12日（日）10:00～16:00

場所：愛媛県美術館 エントランスホール・中庭等

※入場無料



「第3回えひめ障がい者アート

“ほっと♡ハート♡アート” コンテスト展覧会」

会期：8月24日（日）～10月19日（日）

場所：ミウラート・ヴィレッジ1階南展示室

※入場無料



紙面左：創造の森（部分）1979 © 紙面右上：取材でバサニートに乗る真鍋 1971
紙面右下：『ブリヂストン自転車カタログ74 子供車・こどものりもの・特殊車シリーズ』（部分）愛媛県立図書館蔵 1974 ©

掲載作品の展示館については、作品情報末尾の記号をご参照ください。

①＝愛媛県美術館、②＝セキ美術館、③＝ミウラート・ヴィレッジ

未記載のものは、すべて愛媛県美術館蔵



ぶらんこ自転車
『自転車讃歌』挿絵原画 1973 ㊤
50年後の暮らし、2045年！ 1994 ㊤



未来は
占ってはならない、
創るべきものだ。



自分で
掴みとりたい、
実現させたい
未来である。

タイムマシーン 1979 ㊤
電気『2001年の日本』挿絵原画 1969 ㊤



『自動車じどうしゃ』1971 愛媛県立図書館蔵 ㊤
レーシングカー レーシングスポーツカー
『自動車じどうしゃ』挿絵原画 1971 ㊤

世界のどこで刷っても、
原稿と同じものが
印刷される



交通案内

- 愛媛県美術館**
◎伊予鉄道「南堀端（愛媛県美術館前）」下車、徒歩3分。「松山市駅」徒歩5分。
※駐車場は、県庁西駐車場（2時間無料）をご利用できますが、駐車台数に限りがあり、混雑が予想されるため、公共交通機関等のご利用をお願いします。
- セキ美術館**
◎伊予鉄道「南町（県民文化会館前）」または「道後温泉」下車、徒歩5分。
※お車で越しの方は、美術館北側の駐車場（無料）をご利用ください。
- ミウラート・ヴィレッジ**
◎伊予鉄道「堀江駅」下車、徒歩25分。◎伊予バス北条線「内宮」バス停下車、徒歩15分。
（駐車場）30台と土・日・祝日は臨時駐車場（三浦工業福角駐車場約250台）をご利用できます。

観覧料

	愛媛県美術館	セキ美術館	ミウラート・ヴィレッジ
一般	340 (270) 円	800 円	700 円
65歳以上	—	800 円	500 円
大学生	230 (180) 円	700 円	400 円
高校生	230 (180) 円	500 円	400 円
中学生	—	500 円	—
小学生	—	500 円	—

- 愛媛県美術館**
※小中学生、満65歳以上の方は無料。※障がい者手帳等をお持ちの方とその介護者1名は無料。
※（ ）は、団体（20名以上）料金。
- セキ美術館**
※「秋の所蔵作品展」もご覧いただけます。
- ミウラート・ヴィレッジ**
※65歳以上の方は、その証明書等の提示で500円となります。
※障がい者の方は、その証明書等の提示でご本人と介護者が500円となります。

愛媛県美術館

〒790-0007 愛媛県松山市堀之内
TEL. 089-932-0010
<https://www.ehime-art.jp/>

セキ美術館 SEKI ART GALLERY

〒790-0848 愛媛県松山市道後喜多町4-42
TEL 089-946-5678
<https://www.seki.co.jp/mus/>

MIURART

〒799-2651 愛媛県松山市堀江町1165-1
TEL.089-978-6838
<https://www.miuraz.co.jp/miurart>

